

みんなの健康ラジオ

『膀胱炎②』

(2021年8月26日放送)

横浜市泌尿器科医会

綱島泌尿器科・内科クリニック

大隅 信幸

複雑性膀胱炎とは単純性膀胱炎とは違って基礎疾患が原因となっておこる膀胱炎です。例えば尿路結石、悪性腫瘍が原因となるものや尿路の閉塞を解除するために留置する尿管ステント、尿道カテーテルなどといった管に付着する細菌によっておこるものなどがあります。

原因菌としてはやはり大腸菌などの腸内の常在菌が多いです。器質的疾患を持っている方が多いのでやはり高齢者に多い傾向にあります。その方々は免疫力が落ちているので緑膿菌やMRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)という弱くて普段は健常人には悪さをしないけれどいざとなると抗菌剤に効きにくい細菌も原因になることもまれではありません。

治療はまず原因となっている尿路結石や悪性腫瘍などの器質的異常を治すことが大切です。それが不可能な場合は症状に応じた加療をしつつ、その状態を悪化させないようにすることです。

大事なものは慢性的に尿検査で膀胱炎の所見があっても重篤な症状がない限り不必要に抗菌剤を使用しないことです。漫然と抗菌剤を使用すると菌がその抗菌剤に効かなくなるように遺伝子レベルで変化してしまうからです。

我々医師は日頃から尿などの検体を培養してどのような菌がいてそれに対してどのような抗菌剤が有効なのかを試験管レベルで確認しています。

みなさんは日頃から飲水を多くして尿で汚れを洗い流すようにしましょう。ステント、カテーテルなどを挿入している方はまめに受診してまめに交換したり、しっかり洗浄してもらおうよう心がけてください。